仙台市文化財
パンフレット
第69集

せんだい古今東西線

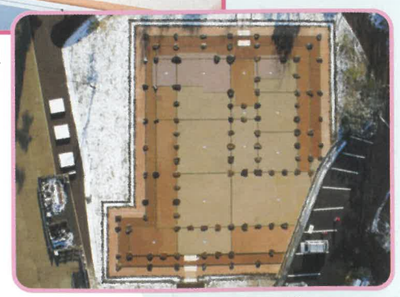
W E

ヨヘエクン

東西線に乗って、
駅周辺にある文化財などを
〝ぶらり旅〟してみませんか

オニガー

陸奥国分寺復元模型



仙台城本丸大広間遺構表示

芭蕉の辻

仙台城中門石垣

仙台城脇櫓・土塀

仙台城三の丸の水堀（博物館前・五色沼）
※フィギュアスケート発祥の地

陸奥国分寺薬師堂仁王門（宮城県指定有形文化財）

史跡　陸奥国分尼寺跡（金堂跡）

榴岡天満宮

沓形遺跡（弥生時代の水田跡）

年　表

	時代区分	年　代	主な出来事
原始	旧石器	30000年前	人類の活動が認められるようになる
		20000年前	山田上ノ台遺跡に石器製作跡、富沢遺跡にキャンプ跡が残される
		13000年前	土器の製作・使用が始まる弓矢による狩猟がおこなわれる
	縄　文	5000～4000年前	上野遺跡・高柳遺跡・山田上ノ台遺跡など大規模なムラがあらわれる
		BC500年～BC300年頃	大陸から稲作文化が伝わり、九州島～本州島で広く受容される
	弥　生		中在家南遺跡や沓形遺跡など仙台平野で水田稲作が行われる
			弥生中期の大震災で仙台平野沿岸部が津波の被害を受ける
		AD250～AD300年頃	古墳がつくられる
古代	古　墳		遠見塚古墳がつくられる
		400年頃	大陸から須恵器生産などの新技術が伝わる
			仏教が伝わる
		645年	大化の改新（乙巳の変）
			郡山遺跡に官衙が造営される
		710年	平城京に都が移る
	奈　良	724年	陸奥国府多賀城が造営される
		750年頃	陸奥国分寺・陸奥国分尼寺が造営される
		794年	平安京に都が移る
	平　安	869年	貞観11年の大震災で仙台平野沿岸部が津波の被害を受ける
中世	鎌　倉	1185年	源頼朝が守護・地頭を設置する
		1192年	源頼朝が征夷大将軍になる
	室　町	1333年	仙台市内各地に城館が造られる
		1573年	織田信長が室町幕府を滅ぼす
近世	安土桃山	1600年	伊達政宗が千代を仙台と改め、仙台城普請の縄張を行う
		1603年	徳川家康が征夷大将軍になる
	江　戸	1610年	仙台城大広間が完成する
		1668年	震災で仙台城本丸石垣が崩れる
		1868年	明治維新
近代	明　治	1887年	仙台駅開業
	大　正		
現代	昭　和	1945年	仙台空襲　大手門・脇櫓、巽門焼失
		1977年	仙台駅　現駅舎使用開始
		1987年	地下鉄南北線開業
	平　成	2015年	地下鉄東西線開業（予定）

※赤字は仙台平野の出来事

地下鉄東西線について

地下鉄東西線は、南西部の八木山動物公園付近から都心部の仙台駅付近を経て、仙台東部道路の東インターチェンジ付近に至る約13.9ｋｍの路線です。沿線の環境、景観などへの配慮や道路交通への影響を考え、河川などの横断部を除き、地下トンネルを主体とした方式としています。

車両はリニアモーター地下鉄を採用しており、八木山動物公園駅から荒井駅までわずか26分でつなぎます。
地下鉄東西線に乗って、駅周辺にできた新しいまちなみとともに、数多く残されている“文化財”などを見て、ぶらり旅をしてみてはいかがでしょうか？

発行：仙台市教育委員会　平成27年11月

東西線沿線MAP

名勝「木の下及び薬師堂」芭蕉句碑

法領塚古墳

若林城跡

TOZAI LINE MAP

1. 仙台城跡
2. 桜ヶ岡公園遺跡
3. 川内A遺跡　川内B遺跡　川内C遺跡
4. 名勝　おくのほそ道の風景地「つゝじが岡及び天神の御社」
5. 市指定史跡三沢初子の墓
6. 国史跡　陸奥国分尼寺跡
7. 国史跡　陸奥国分寺跡、名勝　おくのほそ道の風景地「木の下及び薬師堂」
8. 北屋敷遺跡
9. 中在家南遺跡
10. 沓形遺跡
11. 荒井広瀬遺跡

八木山動物公園駅・青葉山駅・川内駅

川内駅は仙台城跡の中にあります。

仙台城は初代藩主伊達政宗によって造営されました。関ヶ原の戦い直後の慶長5年（1600）12月、城の縄張りが行われ、工事は慶長7年（1602）には一応の完成をみたとされています。仙台城本丸は、東側が広瀬川に臨む断崖であり、西側を「御裏林」と呼ばれる山林、南側を竜の口渓谷が囲むという自然の地形を巧みに利用した「山城」でした。政宗の死後、二代藩主忠宗が二の丸を造営すると、二の丸が藩政の中心となり、三の丸・重臣武家屋敷などが一体となって城域を形成していました。

明治に入り、仙台城本丸は破却され、二の丸には軍の施設が置かれました。現在、二の丸は東北大学川内キャンパスに、三の丸は仙台市博物館にその姿を変えています。平成15年8月、国の史跡指定を受けています。

●東日本大震災からの復旧

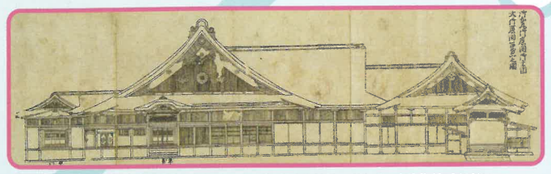
平成23年3月11日の大地震やその後の余震によって、仙台城跡の数箇所で石垣が崩れ、本丸跡の東側では崖崩れが発生するなど、多くの被害がありました。平成23年末から4年間かけて行われた石垣復旧事業は平成27年2月に工事を完了し、石垣は震災以前と同様の姿に戻りました。

本丸北西石垣の被災状況
（平成23年3月）

本丸北西石垣の復旧状況
（平成27年2月）

●仙台城の象徴！本丸大広間

大広間は本丸の中心的な建物で、藩の重要な政治や儀式が行われていました。全部で14の部屋があり、畳敷きと縁側を合わせると約430畳もの広さになる大規模なものでした。



『千田家姿絵図』（本丸大広間部分）＜仙台市博物館蔵＞

●大広間の遺構を復元しています！

仙台市では、大広間の発掘調査成果や絵図に基づき、礎石を配置して、建物規模や部屋割りを、実際の場所に同じ大きさで復元しています。ぜひ本丸までおいでいただき、仙台城の中心的建物である大広間の大きさを体感してみてください。

大広間遺構表示の様子（仙台城本丸跡）

●仙台城見聞館もリニューアル！

本丸跡にあるガイダンス施設（仙台城見聞館）が平成27年2月にリニューアルオープンしました。藩主が座る「上段の間」の床の一部を実物大で再現したり、大広間の模型を50分の1のスケールで展示しています。大広間の遺構表示と併せて見ることで、よりいっそう大広間を体感できると思います。

大広間の模型
（50分の1）

大広間「上段の間」の床
※上段の間に描かれていた鳳凰の障壁画を再現しています。

国際センター駅・大町西公園駅

国際センター駅周辺

駅は川内A遺跡の中にあります。その西側に川内B遺跡があります。江戸時代を中心とした遺跡です。どちらも絵図によると「御炭蔵」や、家臣の屋敷として利用されてきました。明治以降は軍の用地となり、倉庫として利用されていました。発掘調査では多数の陶磁器、井戸跡や建物跡、時代の経過とともに埋め立てられていった沢跡などが発見されています。

駅の南側には川内C遺跡があります。ここで発見されたものは縄文時代の土器や石器が中心です。特に土偶（胴体部分）が出土したことが注目されます。

川内C遺跡出土の土偶（縄文時代）

大町西公園駅周辺

駅は桜ヶ岡公園遺跡の中にあります。江戸時代～近代を中心とした遺跡です。絵図を見ると江戸時代には武家屋敷地として利用されました。屋敷の土地割りや家臣の名前が絵図に残されており、特に公園の南西側（大橋に近い所）は片倉小十郎をはじめとした重臣の名前が見られます。明治8年（1875）に公園として整備されました。公園の中には桜ヶ岡神宮をはじめとし、和洋料亭「挹翠館」、仙台市公会堂、軍の交流施設である偕行社など、さまざまな施設がありました。

発掘調査では、江戸時代の道路や側溝、井戸、柱の跡などがみつかっています。陶磁器の破片や瓦の破片も多数出土しており、「鯱瓦」と呼ばれる特殊な瓦や、金箔で装飾された瓦が発見されています。

「仙台城下絵図」寛文八・九年（1668・1669）

青葉通一番町駅・仙台駅

青葉通一番町駅周辺

江戸時代、この辺りは中級家臣が住む侍町で、「東一番丁」と表記しました。東一番丁の北側は藩の糠蔵があったので「糠蔵丁」、南側には塩蔵があったので「塩蔵丁」とも呼ばれました。一番町の西側には奥州街道が通っておりそれを挟んで国分町がありました。国分町は町人が住むところだったので、「町」を使います。奥州街道と仙台城大手門からのびる大町通との交差点を「芭蕉の辻」と呼び、四隅に城郭風の建物があり、城下町の中心とされました。伝馬役を務め、商店街として発展した国分町には、18世紀後半には伊勢屋半右衛門、西村治右衛門などの出版業者が多数存在し、三都に次ぐ出版文化を誇りました。昭和7年（1932）に藤崎西館、8年（1933）に三越仙台支店が開館し、東一番丁の繁華街・商店街としての地位が確立されました、国分町が現在のような繁華街になったのは、1970年代からです。

文久二年（1862）の仙台城駅から国分町付近
（仙台城下絵図・仙台市博物館蔵）

仙台駅周辺

江戸時代、この辺りは初期の仙台城下の東端に当たり、侍が住む東六番丁という町でした。城下は、大崎八幡宮から県庁、花京院、仙台駅、愛宕大橋を結ぶ線の内側で、「仙台輪中」と称しました。鉄道の仙台駅は、明治20年（1887）に日本鉄道会社の駅として開業しました。最初の駅舎は平屋の小さな駅舎でしたが、明治27年（1894）に中央部2階建て、面積8,407m²という、当時としては大きく立派なものとなりました。その後も増改築を行いながら使われましたが、昭和20年（1945）7月10日の仙台空襲で焼失しました。戦後再建された駅舎は、昭和57年（1982）の東北新幹線開業に合わせて一新、現在の駅舎となりました。

地下鉄南北線の仙台駅は昭和62年（1987）に愛宕上杉通り下に設置され、平成27年12月6日には東西線の仙台駅が開業します。

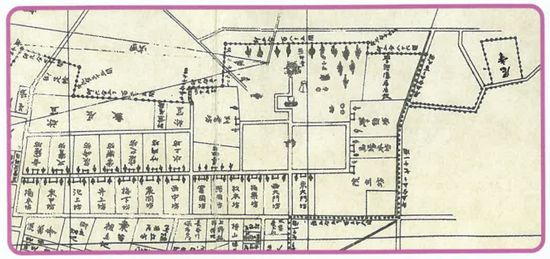
宮城野通駅・連坊駅

宮城野通駅周辺

駅の東側に新寺という地名があります。寛永14年(1637)の仙台城下町の拡張に伴って、現在の広瀬通り付近にあった寺を一部移したことにちなみ「新寺」と名付けられました。

また、駅の北の方には、おくのほそ道の風景地「つゝじが岡及び天神の御社」として平成27年3月国の名勝に指定された榴岡公園や榴岡天満宮があります。

ここは歌枕の名所および由緒地を訪ねて東北・北陸地方を旅した松尾芭蕉が、自らの俳句を織り交ぜて紀行文学として編んだ『おくのほそ道』に登場する一群の風致景観です。



「安政補正改革仙府絵図」安政三年(1856)

連坊駅周辺

江戸時代初期、陸奥国分寺の門前から東西にわたって、二十四もの坊(大寺院に属する小院)が並んでいました。それにちなんで連坊と言われるようになりました。

寛永14年(1637)の城下町の拡張に伴って、この付近に足軽隊が住むようにもなりました。

明治時代以降は連坊小路小学校や第一中学(いまの仙台一高)、東華女学校(宮城二女高を経て、現在の仙台二華中・高等学校)ができて文教地区となりました。

成覚寺山門(市指定文化財)

薬師堂駅

陸奥国分寺薬師堂(重要文化財　江戸時代)

駅の周辺には、史跡陸奥国分寺跡をはじめ、史跡陸奥国分尼寺跡、薬師堂東遺跡、駅名の由来となった陸奥国分寺薬師堂、薬師堂仁王門、白山神社本殿などの遺跡や指定文化財が存在します。これらに加え、陸奥国分寺周辺が平成27年3月に名勝おくのほそ道の風景地「木の下及び薬師堂」として新たに登録されました。

●**陸奥国分寺跡**:昭和30年(1955)から継続的に発掘調査が行われており、金堂、南大門、中門、講堂、僧坊、七重塔などの建物跡などが見つかっています。寺院の規模は東西約800尺(242m)、南北はそれ以上で、全国的に見ても非常に広大な規模であったことが明らかになっています。

●**陸奥国分尼寺跡**:昭和39年(1964)に発掘調査が行われ、金堂と推定される礎石建物跡や、金箔の入った土師器の甕などが見つかりました。その後、平成13年(2001)からの調査で、竪穴住居跡や、金堂の北側に「尼坊」と考えられる掘立柱建物跡が2棟見つかっています。また「佛」と書かれた墨書土器や、須恵器の水瓶なども出土しています。

●**薬師堂東遺跡**:平成21年(2009)から発掘調査が行われ、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡などがありました。その中には、梵鐘を製作した鋳造遺構があり、梵鐘の鋳型の一部などが見つかりました。時期は、平安時代の9世紀後半と考えられています。

薬師堂東遺跡(梵鐘鋳造遺構)

卸町駅・六丁の目駅

六丁の目駅周辺

駅の北東に北屋敷遺跡があります。古代から近世の複合遺跡です。昭和53年(1978)以降の発掘調査の結果、近世の掘立柱建物跡・井戸・土坑、これらを囲う溝跡などが発見され、農村の屋敷跡であるとわかりました。また、この辺りの小字名が「六丁の目字北屋敷」であったことや、近隣にも「明屋敷」・「屋敷」・「鹿子屋敷」・「中屋敷」・「札屋敷」といった屋敷の所在を示す小字名が見られ、「居久根」という屋敷林が残っていたことからもこの辺りに農村集落があったことが窺えます。

中在家南遺跡木製品出土の様子(古墳時代)

駅の800m～1km程南側には中在家南遺跡があります。河川跡と自然堤防に立地する遺跡です。河川跡からは、弥生時代の中頃から江戸時代までのさまざまな遺物がみつかっています。これは遺跡の大きな特徴で、水漬け状態であったために通常であれば腐って残らない木や動物の骨などがみつかっており、貴重な成果があがっています。また、河川に平行する自然堤防上には、弥生時代や古墳時代の墓などがあったことがわかっており、この周辺に人々が暮らしたムラの跡があったことがわかります。

中在家南遺跡出土直柄平鍬(弥生時代)

中在家南遺跡出土縫打具(機織りの道具)(弥生時代)

荒井駅

荒井駅周辺

仙台駅から15分。仙台市街地東方の水田地帯で、海岸線から3km程奥まった位置にある土地です。縄文時代後期の約3500年前から人々が暮らしていたと考えられています。東西線の建設に並行して「減災」「エコ」を軸にした新たな街づくりが始まっています。駅の周辺には弥生時代の沓形遺跡や荒井広瀬遺跡などがあります。

●**沓形遺跡**:駅の南にあり、発掘調査によって、弥生時代の水田跡が見つかりました。当時は海岸線が今よりも2kmほど陸側にあり、海岸から2.5kmほど離れた場所で、水田稲作が行われていました。大小の畦で水田を区画しており、一区画の面積は30㎡ほどと小さく、小区画水田と呼ばれています。この水田は津波が運んだ堆積物で覆われており、約2000年前の津波がこの地域に大きな被害を与えたことも分かりました。

沓形遺跡水田跡(弥生時代)

●**荒井広瀬遺跡**:沓形遺跡の西隣にある遺跡です。2013年の発掘調査で、約2000年前の地震によってできた地割れ跡が見つかりました。地割れ跡の中からは、弥生時代につくられた石器が出土しています。沓形遺跡同様、津波によって運ばれた砂の層に覆われており、大きな地震の直後、津波が押し寄せたことが分かりました。

荒井広瀬遺跡の地割れ跡(弥生時代)